

希望の鐘の音 絶やさぬように

菊池恵楓園と入所者の明るい未来を願い、支える輪はどんどん広がっています。さまざまな立場で園や入所者と関わる人たちに話を聞きました。



市職員
岩間 美咲希

生きた証に触れてほしい

大学生の時に彫刻を専攻していた私は、入所者自治会からの依頼で、来園した人が実際に触れられる手のオブジェを製作しました。

後遺症の残る入所者の手型を取らせてもらい製作したのですが、なかなかうまくいかずに何度も取り直し。でも「何回取ってもいいよ」と温かい言葉をかけてもらったのを覚えています。

私は園との交流が始まるまでハン

セン病について深く知る機会がありませんでした。けれど、園の皆さんがいつも温かく迎えてくれ、不当な差別や偏見を受けてきた入所者の皆さんの思いに触れたことで、知ることの大切さに気付きました。今、市職員として勤めているのも何かの縁。ハンセン病をめぐるさまざまな社会問題を風化させず、生き辛さを抱える人たちに少しでも寄り添っていきたくです。

オブジェは社会交流会館に展示されています。細かいしわまで再現しているのも、ぜひ皆さんも触れて、入所者の皆さんの力強く生きた証を感じてほしいです。



交流の輪が広がってほしい



井芹 和憲さん

交流が始まったのは今から約30年前。恵楓園で子どもが散歩しているときに入所者の一人に写真を撮ってもらい、保育園を通してプレゼントされたことがきっかけです。

お礼に何うと、互いの趣味が写真ということで意気投合。私が小さいころ亡くなった父に面影が似ていたこともあり、いつしかその存在を重ね合わせていました。交流を続けるうちに、家族ぐるみで仲良くなり、

子どもたちも孫のように可愛がってもらいました。

その人の夢は、撮り溜めていた、園内で生息するトンボの写真の個展を開くことでした。私は個展の準備を手伝いましたが、平成3年当時、社会と恵楓園の間には厚い壁があると感じました。

会場の責任者は場所を貸し出すことをためらっていましたが、何度も頭を下げて説得し、開催にこぎつけました。その時は苦労しましたが、世の中の人たちに恵楓園のことを知ってほしい、生き様を感じてほしいと、自分の思いを貫き、行動することができて良かったです。

今、恵楓園には市内外から多くの人たちが、勉強や交流に来ています。ぜひ、一度きりでなく長く交流を続けてほしい、入所者の皆さんの思いを知ってほしいです。



井上 あぐりさん(中央)、
るあさん(右)、きこさん

子どもたちがつなぐ未来

私にとって恵楓園は小学生のころ、遠足で訪れたり、通学の途中に立ち寄りたりしていた身近な場所です。

姉の、るあは恵楓園の中にあるかえでの森こども園の卒園生で、妹のきこは年長になりました。子どもたちは、入所者の皆さんを「おじいちゃん、おばあちゃん」と呼び、夏祭りや運動会などを通じて交流を重ねて

います。クリスマス会ときは「プレゼントを渡したら、とても喜んでくれたよ」と嬉しそうにしています。日頃の散歩の時間も入所者の皆さんと会うと元気にあいさつをしているようです。

最近、姉の、るあはニュースで恵楓園のことが取り上げられると、興味を持ち、私に教えてくれます。かえでの森こども園に通ったことは、子どもたちにとって意味があったのだと思います。

この恵楓園の広大な自然と環境、こは子どもたちが育っていく上でとてもよい場所だと思っています。子どもたちにも私と同じように、恵楓園を身近な場所として感じてほしいですね。そして、この園で育った子どもたちが、きっと暗い過去を明るい未来へつないでくれると信じています。

明るい未来の象徴として



中島 栄治 教育長

令和3年4月、合志楓の森小学校と合志楓の森中学校が開校します。医療刑務所跡地であり、菊池恵楓園のすぐ隣にできる学校です。

教育の根本には人権があります。差別や偏見は、正しく学ぶ機会がなかったことも原因の一つだと思えます。過去の過ちを未来に繰り返さないために、子どもたちにその機会

が保証される活動の展開を行なっていきたいと思います。

学びには環境が影響します。どんなものに触れ、どんなことを感じたか。人権とはまさに人が人として生きる権利です。あの場所に建つ学校である以上、それを確かに感じてほしい。先生たち、保護者、地域の入所者の皆さんとともに、人権について正しく学んでほしいですね。そして、大人になったときにそれを生かしてほしいと思います。

今、恵楓園は笑顔が集まる場所になっています。園内に笑顔があると、子どもたちもほっとします。

悲しい歴史があったことは事実。でもそれを乗り越えて、明るく生きている人たちがいます。新しい学校に通う子どもたちが、その象徴になっていくことを願います。

過去の広報こうしでも菊池恵楓園を取り上げています

広報こうしではこれまでも、菊池恵楓園に関する記事を掲載しています。過去の広報こうしは市ホームページでご覧になれます。



◀平成28年3月号
「心の壁を越えるとき
～ハンセン病問題を考える～」
(2ページ)



◀平成29年5月号
「佐賀県が菊池恵楓園に寄贈入所者の社会復帰祝う希望の鐘」
(7ページ)



Coming soon!

社会交流会館 リニューアルオープンへ

社会交流会館は自治会の皆さんの努力もあり、現在リニューアルへ向けた計画が進行中です。

令和3年11月に新館がオープン、翌年4月に既存の会館の改修を終え全館オープンを予定。ギャラリーが新設され、入所者が描いた油絵などが飾られます。また、新設校の建設に伴い解体された医療刑務支所にあった独居房を復元。恵楓園110年の歴史をたどる大型年表は写真や映像を使用し、より伝わりやすいものを目指します。

ハンセン病や恵楓園の歴史はもちろん、病気、差別や偏見と闘う入所者の姿から訪れた人にも生きる希望を与える役割を担います。



▲現在の社会交流会館